

## 第2章 下野市の概要と文化財

### 1. 下野市の概要

#### (1) 位置

下野市は、関東平野の北部、栃木県の中南部に位置し、都心から約85キロメートル圏にあり首都圏の一端を構成している。北は県都宇都宮市、南は小山市、東は真岡市(旧二宮町)と上三川町、西は栃木市と壬生町に接し、面積は74.59平方キロメートルで、県内の市で最小面積のコンパクトシティである。

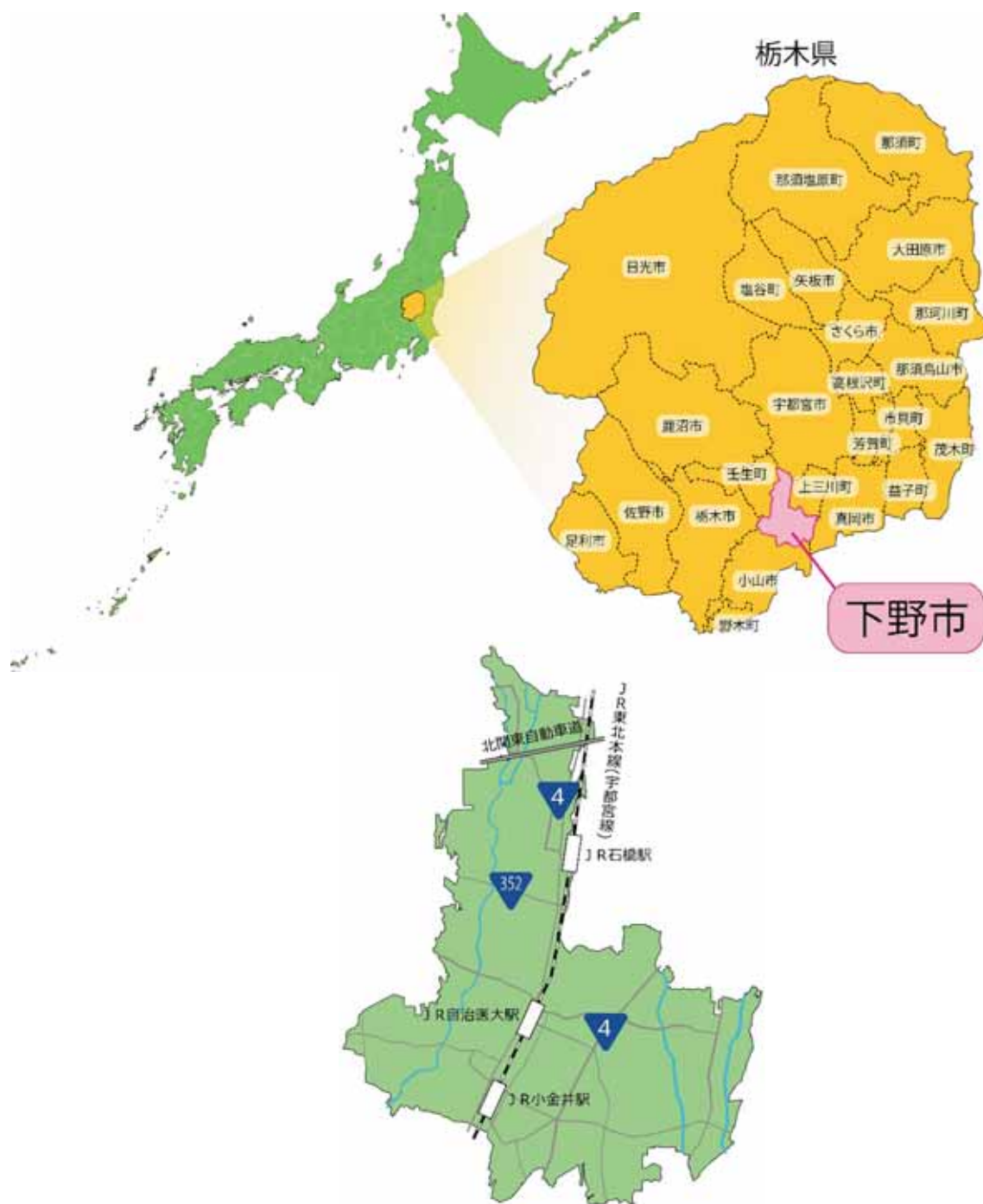


図4 下野市の位置と地図

## (2) 地 勢

東には日光の山地が源流となる鬼怒川と田川、西に足尾山地を源流とする思川と宇都宮市域の山間部を源流とする姿川が南流している。これらの川を下ると利根川水系となるため、現在でも秋には鮭が遡上し、鮭・鯉・鮒・ウナギ・ナマズ・オイカワなどの漁撈の場とともに古代から近世まで水運としても利用された。また、姿川と思川上流の黒川は、その名称のとおり河床には砂鉄を多く含んでいる砂が堆積しており、律令期には製鉄の原材料として採集が行われた可能性も指摘されている。

地形は高低差が少なく平坦な台地と河川沿いに段丘を形成する平野部からなる。古来より開けた農業の生産性の高い土地であったことが、多くの古墳や下野薬師寺、下野国分寺・下野国分尼寺や同時期の集落などの広がりから推測されている。

江戸中期に整備された日光街道沿いの小金井や石橋の旧宿場町と宇都宮と千葉の関宿を結ぶ多功街道沿いに整備された薬師寺村と仁良川村、鬼怒川の水運の河岸があった吉田村が江戸期以降の集住区域であるが、その地域の周辺部に広がる田園地帯は、現在でも当時の景観を残したままの箇所が存在する。河川に接した低地は水田地帯として利活用されているが、この低地と対になる台地は根菜類などの商品作物のほか、当地で生産が開始され 300 年の歴史を持つとされる「干瓢」の原料となる夕顔畑が広がっている。現在、外国産の輸入品も多く流通しているが、国産の約 5 割が下野市で生産されている。これらの干瓢生産には、作付けに不可欠な堆肥の原料となる落ち葉の供給元となる平地林の存在が不可欠である。現在でも畑地の周辺には、クヌギ・クリなどの落葉広葉樹を主とする平地林が広がっている。

主要な交通の一例として、明治 18 年（1885）7 月に上野―宇都宮間で鉄道が開通し、この時石橋駅が開業する。現在、下野市には小金井駅（明治 26 年開業）・自治医大駅（昭和 58 年開業）・石橋駅（明治 18 年開業）の 3 駅が所在する。各駅周辺には古くから市街地が形成されているが、1980 年代には自治医大駅を中心に自治医科大学附属病院の南側に住宅都市整備公団（当時）によりニュータウン開発が進められ新市街地が拡充している。近年では石橋駅西部に所在する県立石橋高等学校周辺で土地区画整理事業が行われ、多くの新住民が新たな生活を始めている。

## (3) 気 候

気候は、年平均気温が約 14℃、年平均降水量が約 1300mm であり、夏は高温多湿、冬は低温乾燥のやや内陸性を帯びた温暖な気候で、積雪はほとんどなく台風などの被害も比較的少ない地域である。

また、夕顔の育成には夏季の夕立が必要であるが、隣接する宇都宮市が「雷都」を名乗るほど雷が多い地域で干瓢生産に適している。

冬は男体おろしと呼ばれる西風が吹き、乾燥した畑地の砂塵を巻き上げることも見られる。



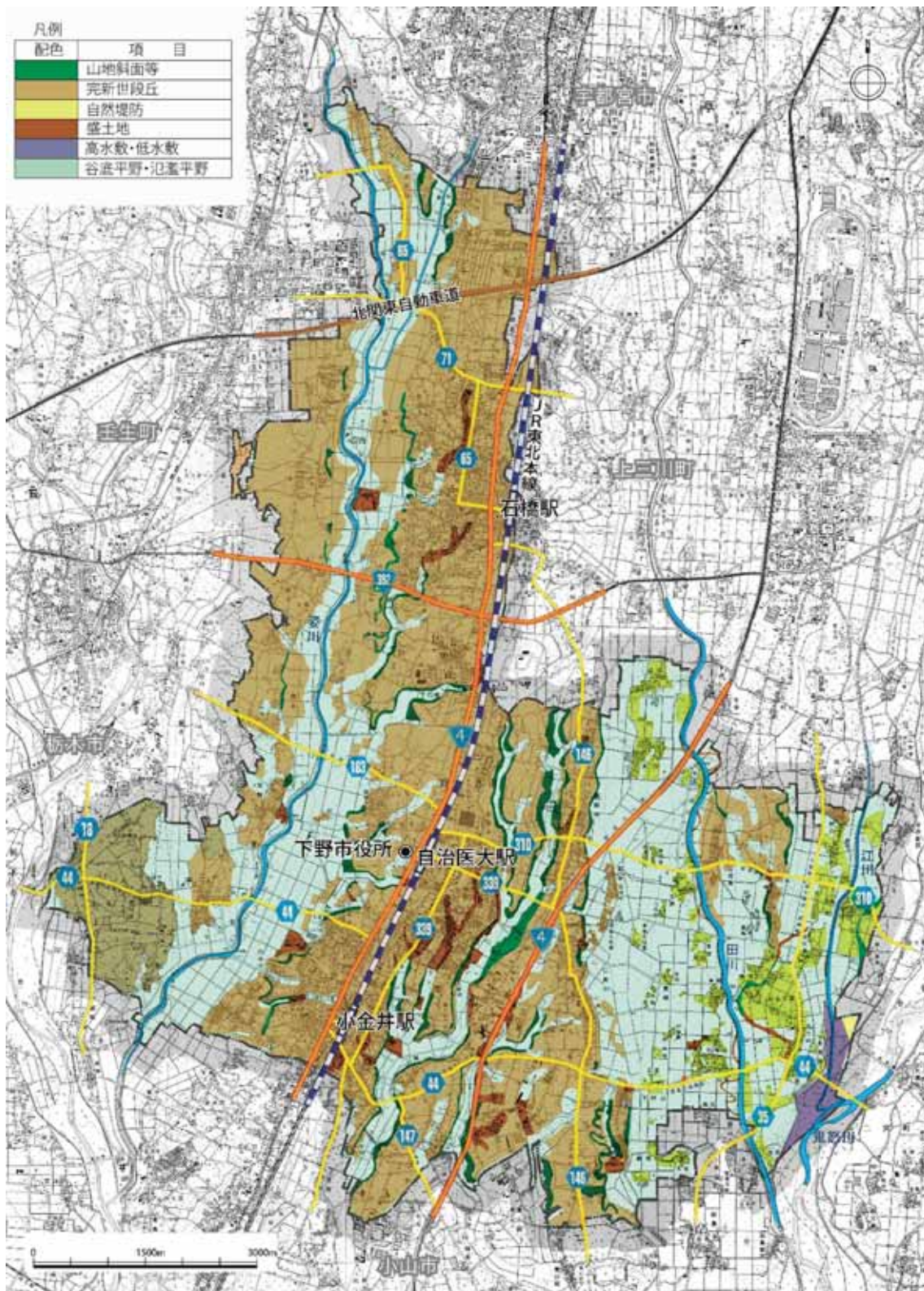


図5 下野市の地形

## (4) 沿 革

下野市は、平成 18 年 1 月 10 日、河内郡南河内町、下都賀郡石橋町及び同郡国分寺町が合併して誕生した。

### 1) 南河内町

旧石器時代から先人が住み始めた痕跡があり、グリーンタウンの開発に伴う調査で、三ノ谷東遺跡、諏訪山遺跡などで後期旧石器時代の遺跡が見つかっている。また、道の駅しもつけの南側の独立丘陵上にある薬師寺稻荷台遺跡では、約 11,000 年前の縄文時代草創期の爪形文土器が出土した。また、縄文時代後期においては、下坪山の西原南遺跡で平面形が柄鏡の形をしている柄鏡形住居が確認されている。弥生時代後期の遺跡として三王山地区に朝日観音遺跡、上三王遺跡などの調査が行われている。古墳時代には前期の前方後方墳である三王山南塚 1 号墳、2 号墳が築造されるが、これらの下層には弥生時代後期の集落が点在していることが知られている。中期の古墳はほとんど確認されていないが、後期には三王山古墳群や下野薬師寺付近に御鷲山古墳や北原古墳群等が造られている。

飛鳥時代には、東山道が整備され付近に下野薬師寺が建立される。中世以降、南河内地区は、小山氏の一族である薬師寺氏や下総結城氏の配下に置かれ、鬼怒川右岸で船運により栄えた地域といわれている。また、昭和 50 年代から平成 3 年にかけて自治医大駅東側のニュータウン開発にあわせて行われた大規模な発掘調査により、中世の宿場と想定される下古館遺跡が確認されている。江戸期には秋田藩や旗本・代官の支配地が混在する地域となった。

明治時代には、廃藩置県によって多くの村が日光県に属したが、明治 6 年 (1873) に栃木県に編入された。明治 22 年 (1889)、町村制施行により吉田村と薬師寺村が誕生し、昭和 30 年 (1955) には吉田村と薬師寺村が合併し南河内村となり、昭和 46 年 (1971)、町制を施行し南河内町となった。

### 2) 石橋町

旧町地区の最北部で宇都宮市と隣接する地域では、縄文時代中～後期の遺跡が確認されている。古墳時代には横塚古墳や下石橋愛宕塚古墳等が築造され、また、古墳時代から古代にかけて多くの集落跡が発見されており、東林遺跡や前川原遺跡からは、古代官人が付けていた帯金具や刀の鞘金具が出土している。さらに地名となるが古代の郡領の役職名を示す「大領」の地名が残っており、石橋駅の東口に位置する河内郡衙との関連も想定される。

中世には宇都宮氏の南方の拠点となる児山城が築かれ、宇都宮氏が改易となる慶長年間まで存続した。江戸時代には日光街道の宿場町として栄えた。

明治時代の廃藩置県により日光県に属したが、明治 6 年 (1873) に栃木県に編入された。明治 22 年 (1889)、町村制施行により旧石橋宿と周囲の村が合併し姿村が成立したが、明治 24 年 (1891) に姿村から旧石橋宿地域などが分離し、石橋町となった。昭和 29 年 (1954) 姿村と石橋町が合併し、新しい石橋町が誕生した。

### 3) 国分寺町

国分寺町域は、縄文時代の遺跡は少なく、弥生時代の遺跡もわずかである。また、この時期以降、古墳時代後期にかけての集落跡もほとんど確認されていない。この状況とは対照的に思川と姿川に挟まれた台地上には、5世紀末から7世紀頃の墳墓群が形成され、墓域として利用された区域と想定されている。

奈良時代になると聖武天皇の「国分寺建立の詔」に基づき、東山道沿いに下野国分寺・下野国分尼寺が建立され、周囲には多数の集落が形成された。中世には箕輪城が築城されたが、どの系統の氏族が築城したのか、文献資料がないため不明である。江戸時代には、江戸と日光を結ぶ日光街道や小金井宿が整備され、多くの人々の往還で賑わった。

明治時代の廃藩置県により日光県に属したが、明治6年(1873)に栃木県に編入された。明治22年(1889)、町村制施行により小金井村、国分村、川中子村などが合併し、国分寺村が成立した。昭和29年(1954)4月1日、国分寺村が町制を施行し、国分寺小金井町となり、その後、4月29日に国分寺町に改称した。

## (5) 社会環境

### 1) 人口

人口は、平成28年4月末で59,961人、世帯数は22,651世帯である。全国的に少子高齢化による人口減少が進展する自治体が多い中で、首都圏への交通利便性や宇都宮市域、小山市等の県内主要都市へ隣接する立地条件の良さ、自治医大附属病院の存在に対する先進医療体制への期待感などから現在のところ急速な人口減少は回避されているが、全国的に広がる少子高齢化の進行は、本市でも避けがたい事実である。

市では、「下野市人口ビジョン」及び「下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27～31年度)の中で、「市民の幸福感の向上・人や企業に選ばれる自治体」との目標とすべき将来の方向性を定めた。

## 下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 【基本目標】

#### ① 魅力的で安定した雇用を創出する

商業・工業・農業振興に取組み、雇用の維持を図るとともに、新たな雇用の創出により若年世代の定住を促進する。

【数値目標】 生産年齢人口の割合 ★63.9%→61.8%

#### ② 東京圏からの新しいひとの流れをつくる

本市の魅力を市内外に積極的に発信するシティプロモーションを推進するとともに、豊かな地域資源を活かした観光の振興、市民が快適に生活でき、人と人との交流が盛んとなるコンパクトシティの形成を図る。

【数値目標】 転入者数(年間) ★2,319人→2,550人  
観光入込客数 ★252万人→277万人



### ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

多様な「出会い」の支援を図るとともに子どもを健やかに産み育てる環境の整備、心身ともに健やかな子どもの育みを支える取組の推進、すべての子育て家庭を応援する体制の充実を目指す。

【数値目標】 合計特殊出生率 ★1.41→1.60

### ④ 安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる

市民が健康で笑顔あふれる生活を送れるための保健福祉の充実、すべての世代でいきいきと活動できる教育文化の振興、安全・安心に暮らせる生活環境の向上の取組を推進するとともに、市民自らがまちの活力を創出していく市民協働の取組を推進する。

【数値目標】 幸せだと感じている市民の割合 ★75.0%→78.0%

住みやすいと感じる市民の割合 ★84.0%→87.0%

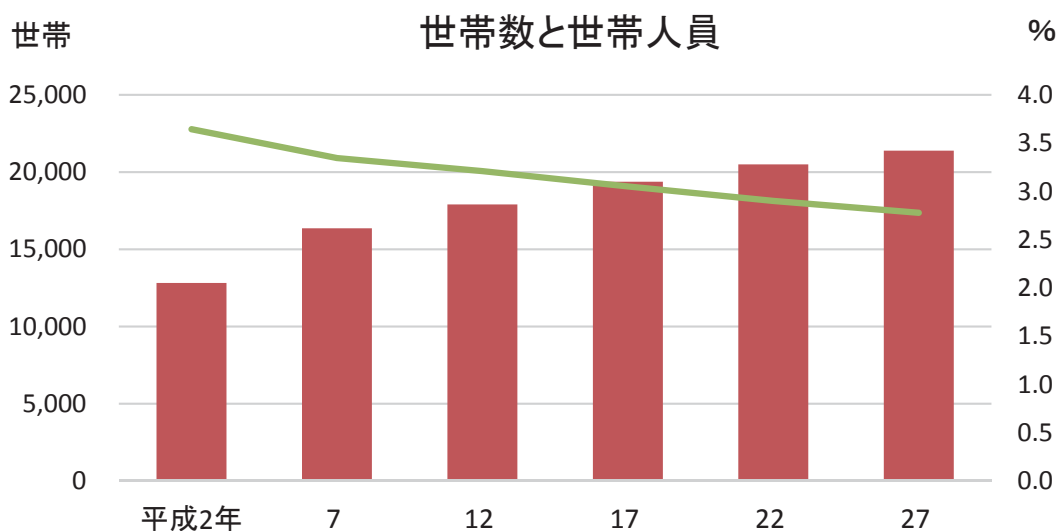
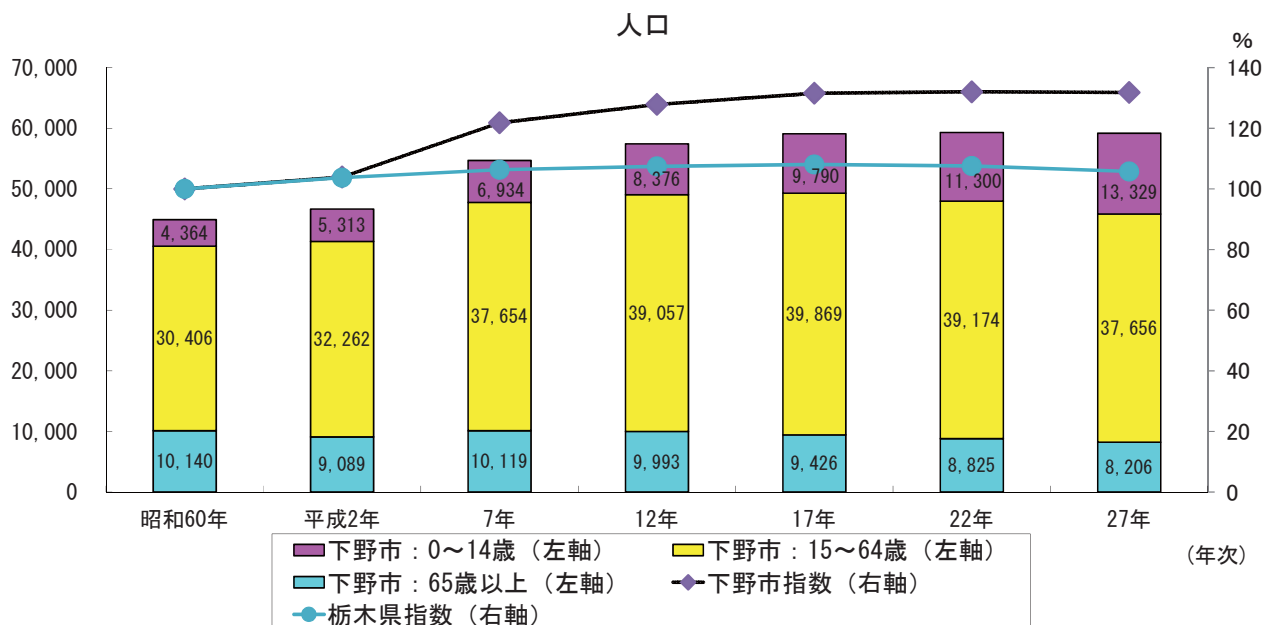


図6 下野市の人口と世帯

## 2) 交通

国道4号、国道新4号、JR東北本線など首都圏の中心部と東北地方を結ぶ大動脈が南北に通っている。東北自動車道の栃木インターチェンジまで約30分であり、近年は北関東自動車道が開通し、2つのインターチェンジ(壬生・宇都宮上三川)が供用開始されたことにより、交通の利便性が増している。

また、本市はJR東北本線に小金井駅と自治医大駅、石橋駅の3駅を有し、都心まで快速等で約70分の通勤圏であり、小山から新幹線利用で約40分の近距離にある。近年ではJR東北本線と横須賀線を直通運転する湘南新宿ラインや、東海道線と直通運転する上野東京ラインが開通したことにより、交通の利便性はますます高くなっている。



## 3) 産業

主要産業は農業、商業、製造業があげられる。農業は、首都圏にある有利な立地条件を生かした都市近郊農業により、米麦を中心にほうれん草、たまねぎ等の露地野菜、きゅうり、トマト、イチゴ等の施設園芸が営まれるとともに、畜産業との複合経営も行われ

ている。また、特産品でもある干瓢の生産量は全国一を誇っている。

製造業は、首都に近く幹線道路、鉄道などの交通条件に恵まれていることを活かして、①輸送用機械器具製造業、②食料品、③プラスチック製品、④金属製品等の工場が進出している。また、近年は物流拠点としての発展も期待されている。就業人口については、第1次産業の減少が顕著であり、主要産業の一つである農業を担う農家の数は平成22年に2,000戸を割り込んでいる。

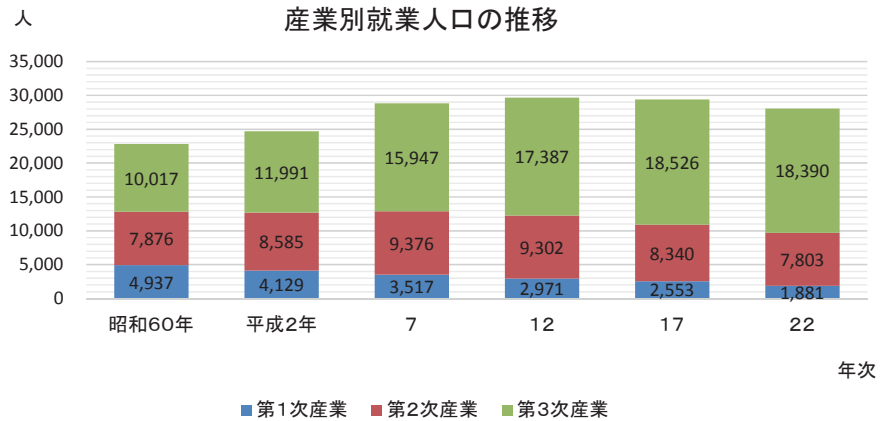
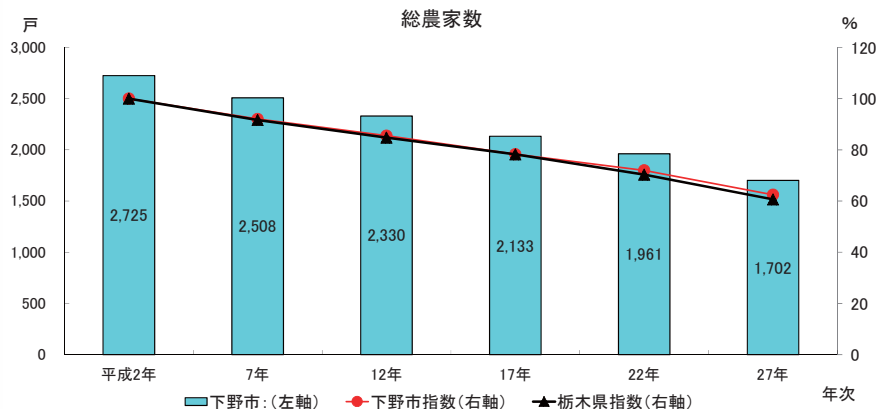


図8 下野市の産業別就業人口の推移

図9

下野市の総農家数の推移



## 2. 歴史文化に係る調査履歴

### (1) 町史編さんに伴う調査

#### 1) 南河内町史

昭和 62 年度から平成 10 年度までの約 12 年間、町の一大文化事業として取組まれた。編さん作業は、土田直鎮氏（当時国立歴史民俗博物館長）を中心に気鋭の研究者によって行われ、史料編全 5 巻、民俗編、通史編 3 巻が刊行された。史料編には「絵図」編が含まれているが、これは当地が旧秋田藩下野領であったため、絵図等の史料が多く残されていたことから作成が可能となったが、地方自治体史では類例は少ない。このほかの史料編は、後述の国分寺町史同様、近世の史料、特に日光道中関宿通に関する史料や、古代東国の仏教文化の中心的存在であった下野薬師寺とその時代に関する史料が豊富に掲載されている。また、民俗編として刊行された本編以外に収録されなかった詳細な記録が膨大に残されているが、現在では既に失われてしまった資料や伝承できる関係者もいなくなっていることなどから、貴重な記録となっている。

#### 2) 石橋町史

昭和 54 年（1979）に町史編さん委員会が組織され、昭和 60 年（1985）に「史料編（上）」、昭和 63 年（1988）に「史料編（下）」、平成 3 年に「通史編」が発刊された。史料編（上）では、栃木県の後期古墳を検討する際に必ず必要とされる横塚古墳、下石橋愛宕塚古墳（この時すでに消失している）に関する資料が採録されている。また、他 2 町同様、江戸期に入り宿場町として石橋宿が形成されていく様子に関する史料を掲載している。また、新政府の知県事役所が開雲寺に置かれた際の関係史料や明治初期からの行財政関連の史料も充実している。

#### 3) 国分寺町史

平成 7 年 7 月に国分寺町史編さん委員会が発足し、平成 15 年度まで事業が行われた。『国分寺町の歴史（通史編）』のほか、概説書として『図説国分寺の歴史』、史料叢書『日光社参関係史料』2 冊が刊行された。この発刊にあわせて、町内各所に点在する五輪塔、石仏、板碑などの現地調査が行われ『板碑編』、『石に刻まれた歴史（野仏編）』が刊行された。さらに民具類やそれに伴う古い写真、町並みなどについて調査が行われ『民俗編』が刊行された。『日光社参関係史料』は、明和・安永期から文政期・天保期にかけての史料が多く、社参に関連した取り決め事、事前調査段階からの記録などが詳細に記されている。これらはいわゆる社参に関する記録とそれらを中心に個人所蔵の史料をまとめたものである。

### (2) その他旧町時代の文化財調査

南河内町では『南河内町の野仏』、伝説を集めた『南河内の伝説』などの関連書籍も刊行された。

石橋町では、町史編さんに先立ち、昭和 50 年（1975）には『石橋町の民俗』が刊行されている。ここには現在県無形文化財である神輿造りや馬市、干瓢の流通に関する資料が掲載



されている。

このほか、石橋町では町史編さん事業の一環として、町内の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施している。南河内町は平成元年度、国分寺町は平成 10～12 年度に埋蔵文化財詳細分布調査を行っている。

### （３）合併以後の下野市による文化財調査

合併後、市内に所在する文化財の保護と活用を進めるため、文化財悉皆調査を平成 21～23 年度の 3 か年で実施した。調査の対象は、神社仏閣に所在する文化財や学校に保管されている文化財を主とした。実際の調査では、市内の神社仏閣等約 120 か所、中学校 4 校、小学校 12 校の全 16 校に協力していただいた。個人が所有する文化財については、保存と活用、公開に関する都合上、今回の対象からは除外し、これらに関する制度の再整備後に改めて調査を実施することとした。調査の結果、指定・未指定合わせて市内には約 400 点ほど文化財が存在することが判明した。再調査が必要な箇所もあるため、総点数はさらに増加することが見込まれる。

今後は、これらの資料から下野市指定文化財としての指定基準の再検討や将来的に指定の必要な文化財を把握し、散逸等のないよう適切な管理をするためのデータベース化を進める予定である。

また、平成 24 年度から市指定文化財の修理及び保管に関する補助制度を新たに制定した。同年度、仁良川自治会が管理する薬師如来立像及び十二神将像の修理を、33 年に一度の御開帳にあわせ行った。

### 3.下野市の文化財

#### (1) 種別ごとの文化財の傾向

現在、国・県・市の指定文化財は105件に上る。種別ごとの内訳は、表3のとおりである。本市の文化財の特徴として、県内で一番面積の小さい市であるが、埋蔵文化財包蔵地（現在515か所）の面積比率が県内でも高い点が挙げられる。これらの遺跡や包蔵地では、昭和40年代以降100か所以上発掘調査・試掘調査が行われてきた。そのため、史跡や出土遺物など埋蔵文化財関係の指定文化財が多く、国指定文化財も5件のうち4件が史跡である。また、自然災害、戦災による被害も少なかったことから、主に江戸時代の歴史資料や彫刻、絵画等の有形文化財も数多く残り、市の指定文化財として指定されている。

反面、民俗文化財や無形文化財は数が少ない。有形文化財の中では特に建造物の指定件数が少なく、戦禍を免れたのにも関わらず、登録文化財に相当する近代以降の建造物もほとんど残っていない。個人住宅以外でも学校、役場や郵便局、駅などの公共施設に関連した建造物も残されていないのが現状である。

民俗に関する調査は、合併前に各町で町史編さんの際に行われている。特に南河内町史編さん時は詳細な調査が行われた。その一環として、当時町内に残っていた民家の調査も行われたが、その後の調査が続かなかつたため、指定件数は増えていない。また、江戸時代以来の名産品であり、本市にも生産者が存在する結城紬は、ユネスコの無形文化遺産となっている。なお、文化財のうち、名勝、伝統的建造物、文化的景観、登録文化財について、指定件数は0件となっている。

表3 下野市の指定文化財の件数（平成28年4月時点）

種 別		国指定	県指定	市指定	計
有形文化財	建 造 物	0	1	3	4
	工 芸 品	1	1	3	5
	彫 刻	0	2	14	16
	書 跡	0	2	2	4
	絵 画	0	0	18	18
	古 文 書	0	0	5	5
	歴 史 資 料	0	0	17	17
	考 古 資 料	0	2	13	15
無形文化財		0	1	0	1
民俗文化財	有 形 民 俗	0	0	1	1
	無 形 民 俗	0	0	3	3
記念物	史 跡	4	3	5	12
	名 勝	0	0	0	0
	天然記念物	0	1	3	4
計		5	13	87	105

表4 下野市の指定文化財一覧

NO	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	時代
1	国	工芸品	大刀 鑄造	平成元年6月12日	(祇園)	平安時代
2	国	史跡	下野薬師寺跡	大正10年3月3日	薬師寺	飛鳥～平安
3	国	史跡	下野国分寺跡	大正10年3月3日	国分寺	奈良・平安
4	国	史跡	下野国分尼寺跡	昭和40年4月9日	国分寺	奈良・平安
5	国	史跡	小金井一里塚	大正11年3月8日	小金井	江戸
6	県	彫刻	銅造 誕生釈迦仏立像	平成3年2月19日	薬師寺	飛鳥
7	県	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	昭和46年2月16日	石橋	南北朝
8	県	工芸品	太刀 銘 勝広造	昭和36年5月6日	小金井	戦国
9	県	書跡	紙本墨書 大方廣仏花嚴経一の五	平成3年10月11日	本吉田	平安
10	県	書跡	紙本墨書 大般若波羅蜜多経第二二六	平成3年10月11日	本吉田	平安
11	県	考古資料	東根供養塔	昭和32年6月30日	東根	鎌倉
12	県	考古資料	別処山古墳石室内出土遺物	平成20年8月22日	小金井	古墳
13	県	建造物	八幡宮本殿及び拜殿	平成10年1月16日	薬師寺	江戸
14	県	無形文化財	石橋江戸神輿	平成4年2月28日	石橋	
15	県	史跡	児山城跡	昭和36年5月6日	下古山	鎌倉～戦国
16	県	史跡	丸塚古墳	昭和53年6月2日	国分寺	古墳
17	県	史跡	愛宕塚古墳	昭和53年9月8日	国分寺	古墳
18	県	天然記念物	龍興寺のシラカン	平成元年8月25日	薬師寺	
19	市	絵画	紙本着色 涅槃図	昭和60年12月6日	薬師寺	江戸
20	市	絵画	絹本着色 釈迦三尊十六善神像図	昭和60年12月6日	薬師寺	江戸
21	市	絵画	絹本着色 釈迦三尊十六善神像図	昭和60年12月6日	仁良川	江戸
22	市	絵画	絹本着色 釈迦三尊十六善神像図	昭和60年12月6日	上坪山	江戸
23	市	絵画	絹本着色 元寿僧正像図	昭和60年12月6日	田中	江戸
24	市	絵画	大絵馬 熊谷次郎直実と平敦盛の図	昭和63年2月18日	薬師寺	江戸
25	市	絵画	額絵馬 吉田川岸子供連と花車の図	昭和63年2月18日	仁良川	江戸
26	市	絵画	釈迦涅槃図	昭和43年10月1日	橋本	江戸
27	市	絵画	釈迦涅槃図	昭和43年10月1日	上台	江戸
28	市	絵画	秋景山水図	昭和43年10月1日	石橋	江戸
29	市	絵画	山水図	昭和43年10月1日	下古山	江戸
30	市	絵画	万菊写生	昭和43年10月1日	下古山	江戸
31	市	絵画	六曲一双 金屏風	昭和43年10月1日	石橋	江戸
32	市	絵画	屏風	昭和43年10月1日	石橋	江戸
33	市	絵画	裁許絵図	昭和43年10月1日	下古山	江戸
34	市	絵画	山水図	昭和48年1月10日	石橋	江戸
35	市	絵画	慈母観音(下図)	平成14年7月10日	石橋	江戸
36	市	絵画	南無観世音菩薩	平成14年7月10日	石橋	昭和
37	市	彫刻	木造 百体観音菩薩像	昭和60年12月6日	絹板	江戸
38	市	彫刻	木造 薬師如来立像・脇侍十二神将立像	昭和60年12月6日	仁良川	江戸
39	市	彫刻	木造 薬師如来立像	昭和60年12月6日	上吉田	江戸
40	市	彫刻	石造 如意輪観音坐像	昭和62年2月16日	磯部	江戸
41	市	彫刻	石造 阿弥陀如来立像	昭和62年2月16日	磯部	江戸
42	市	彫刻	薬師三尊立像	昭和43年10月1日	下古山	江戸
43	市	彫刻	胎藏界大日如来坐像	昭和43年10月1日	下古山	江戸
44	市	彫刻	聖観音坐像	昭和43年10月1日	東前原	江戸
45	市	彫刻	休観音坐像	昭和43年10月1日	東前原	戦国
46	市	彫刻	薬師如来坐像	昭和43年10月1日	橋本	江戸
47	市	彫刻	釈迦如来坐像	昭和43年10月1日	上台	平安末
48	市	彫刻	薬師如来立像	昭和48年1月10日	上古山	江戸
49	市	彫刻	聖観音立像	昭和48年1月10日	上古山	室町
50	市	彫刻	釈迦如来坐像	昭和49年5月1日	国分寺	平安
51	市	工芸品	石造 手洗鉢	昭和62年2月16日	本吉田	江戸
52	市	工芸品	梵鐘	昭和43年10月1日	石橋	江戸
53	市	工芸品	本堂格天井	昭和43年10月1日	下古山	江戸

NO	指定	種 別	名 称	指定年月日	所在地	時 代
54	市	書 跡	徳川家光の書	昭和43年10月1日	石 橋	江戸
55	市	書 跡	生花正伝記	昭和43年10月1日	石 橋	江戸
56	市	古文書	御縄帳	昭和43年10月1日	石 橋	江戸
57	市	古文書	宗門人別御改帳	昭和43年10月1日	石 橋	江戸
58	市	古文書	御参詣に付荒増之覚書	昭和43年10月1日	下石橋	江戸
59	市	古文書	飢饉に付御触書之写	昭和43年10月1日	下石橋	江戸
60	市	古文書	鍋島知県事論達	平成14年7月10日	石 橋	明治
61	市	考古資料	下野薬師寺跡出土瓦（白鳳期瓦）	昭和60年12月6日	薬師寺	飛鳥・奈良・平安
62	市	考古資料	下野薬師寺伽藍礎石	昭和60年12月6日	薬師寺	飛鳥・奈良・平安
63	市	考古資料	金銅製 釈迦誕生仏立像	昭和60年12月6日	薬師寺	江戸
64	市	考古資料	阿弥陀如来種子板碑	昭和60年12月6日	薬師寺	鎌倉・室町
65	市	考古資料	日蓮題目板碑	昭和60年12月6日	成 田	鎌倉・室町
66	市	考古資料	仁良川宝篋印塔	昭和60年12月6日	仁良川	江戸
67	市	考古資料	本吉田宝篋印塔	昭和60年12月6日	本吉田	江戸
68	市	考古資料	谷地賀上原古墳出土遺物	平成3年2月25日	小金井	古墳
69	市	考古資料	向山遺跡出土遺物（青銅鏡和鏡）	平成3年2月25日	小金井	鎌倉・室町
70	市	考古資料	小金井出土埋納銭（渡来銭）	昭和53年10月20日	小金井	鎌倉・室町
71	市	考古資料	国分寺五輪塔	昭和53年10月20日	国分寺	鎌倉・室町
72	市	考古資料	伝紫式部墓五輪塔	昭和53年10月20日	国分寺	鎌倉・室町
73	市	考古資料	国分寺出土渡来銭及び常滑壺	平成10年4月1日	小金井	室町
74	市	歴史資料	石造 二十三夜供養等	昭和62年2月16日	薬師寺	江戸
75	市	歴史資料	石造 地蔵菩薩坐像	昭和62年2月16日	薬師寺	江戸
76	市	歴史資料	石造 二十三夜・二十六夜供養塔	昭和62年2月16日	三王山	江戸
77	市	歴史資料	延享元年 下野国河内郡薬師寺村絵図	平成6年3月15日	薬師寺	江戸
78	市	歴史資料	年不詳 下野国河内郡仁良川村絵図	平成6年3月15日	仁良川	江戸
79	市	歴史資料	寛政七年 河内郡町田村荒地絵図	平成6年3月15日	町 田	江戸
80	市	歴史資料	寛政十年 天和元年薬師寺村外九ヶ村申出図写	平成6年3月15日	田 中	江戸
81	市	歴史資料	天保三年 野州御領惣絵図	平成6年3月15日	仁良川	江戸
82	市	歴史資料	天保三年 野州御領惣絵図	平成6年3月15日	絹 板	江戸
83	市	歴史資料	年不詳 薬師寺村絵図	平成6年3月15日	町 田	江戸
84	市	歴史資料	鉄砲打通報の高札	平成9年3月18日	町 田	江戸
85	市	歴史資料	百姓一揆禁圧の高札	平成9年3月18日	町 田	江戸
86	市	歴史資料	傍示杭	平成9年3月18日	小金井	江戸
87	市	歴史資料	街道継立人馬賃銭覚の高札	平成9年3月18日	本吉田	江戸
88	市	歴史資料	秋山家日記	平成11年3月15日	町 田	江戸
89	市	歴史資料	野口家文書	平成13年8月20日	薬師寺	江戸
90	市	歴史資料	俳諧碑	平成16年4月1日	小金井	江戸
91	市	建造物	六角堂	昭和60年12月6日	薬師寺	江戸
92	市	建造物	金井神社本殿	平成元年4月1日	小金井	江戸
93	市	建造物	八幡宮本殿	平成10年4月1日	川中子	江戸
94	市	有形民俗	石造 阿弥陀庚申塔	昭和62年2月16日	本吉田	江戸
95	市	無形民俗	中大領大杉ばやし	昭和50年4月1日	中大領	江戸
96	市	無形民俗	下古山星宮神社太々神楽	昭和50年4月1日	下古山	江戸
97	市	無形民俗	橋本神社太々神楽	昭和50年4月1日	橋 本	江戸
98	市	史 跡	道鏡塚（古墳）	昭和62年2月16日	薬師寺	古墳
99	市	史 跡	鑑真和尚之碑	昭和62年2月16日	薬師寺	江戸
100	市	史 跡	藤鷹墳	昭和62年2月16日	薬師寺	江戸
101	市	史 跡	北台遺跡	平成14年4月1日	川中子	奈良・平安
102	市	天然記念物	薬師寺八幡宮のケヤキ	平成2年3月13日	薬師寺	
103	市	天然記念物	満福寺のツバキ	平成2年3月13日	仁良川	
104	市	天然記念物	満福寺のムクロジ	平成2年3月13日	仁良川	
105	市	史 跡	オトカ塚古墳	平成18年6月1日	紫	古墳



## (2) 地域ごとの文化財の傾向

合併前の旧南河内町・石橋町・国分寺町の地域ごとの文化財の傾向は、表5のとおりである。国指定文化財である国史跡4件のうち3件（史跡下野国分寺跡、史跡下野国分尼寺跡、史跡小金井一里塚）が旧国分寺町に、史跡下野薬師寺跡が旧南河内町に所在する。

旧南河内町では53件と件数が最も多く、中でも歴史資料が多い。こうした状況は町史編さん時における調査の内容や方向性が反映されていると考えられる。一方、旧国分寺町は18件の指定文化財のうち、史跡が7件、考古資料が6件を占めており、埋蔵文化財が主要な位置を占めていることがうかがえる。

旧石橋町は34件の指定文化財を有するが、このうちの1件は江戸神輿製作に関する技術であり、県指定の無形文化財となっている。また、半数以上の20件が絵画と彫刻であり、中には個人所有のものもあるため、市民の目に付きにくい状態にある。かつて旧石橋町域には貴重な古墳や城館跡が複数存在したが、開発によって消滅したものが多い。また、石橋地区は市内でも干瓢生産が盛んな地域であり、干瓢生産に伴う生産用具や干瓢農家の家屋といった関連資料が多数残されているが、これらは文化財として意識されていない状況にある。このほか、民俗・芸能では下古山星宮神社の太々神楽、橋本神社の太々神楽、中大領地区の大杉囃子などが市内の指定事例となっている。こうしたことから、公開活用されている史跡が存在する旧南河内町や旧国分寺町に比べて、文化財に対する意識がやや低い傾向にある。そうした中で、県史跡の兎山城跡は、地域の歴史を示す史跡として地元の高い意識が高い。最近では保護団体が組織され、地元主導で除草清掃活動が行われるなど史跡の活用が進められつつある。

表5 地域別文化財の指定状況

		南河内			石橋			国分寺			合計
		国指定	県指定	市指定	国指定	県指定	市指定	国指定	県指定	市指定	
有形文化財	建造物	0	1	1	0	0	0	0	0	2	4
	絵画	0	0	7	0	0	11	0	0	0	18
	彫刻	0	1	5	0	1	8	0	0	1	16
	工芸品	1	0	1	0	0	2	0	1	0	5
	書跡	0	2	0	0	0	2	0	0	0	4
	古文書	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
	考古資料	0	1	7	0	0	0	0	1	6	15
	歴史資料	1	0	16	0	0	0	0	0	0	17
無形文化財		0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
民俗文化財	有形民俗文化財	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	無形民俗文化財	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
記念物	史跡	1	0	3	0	1	0	3	2	2	12
	天然記念物	0	1	3	0	0	0	0	0	0	4
合計		3	6	44	0	3	31	3	4	11	105
		53			34			18			

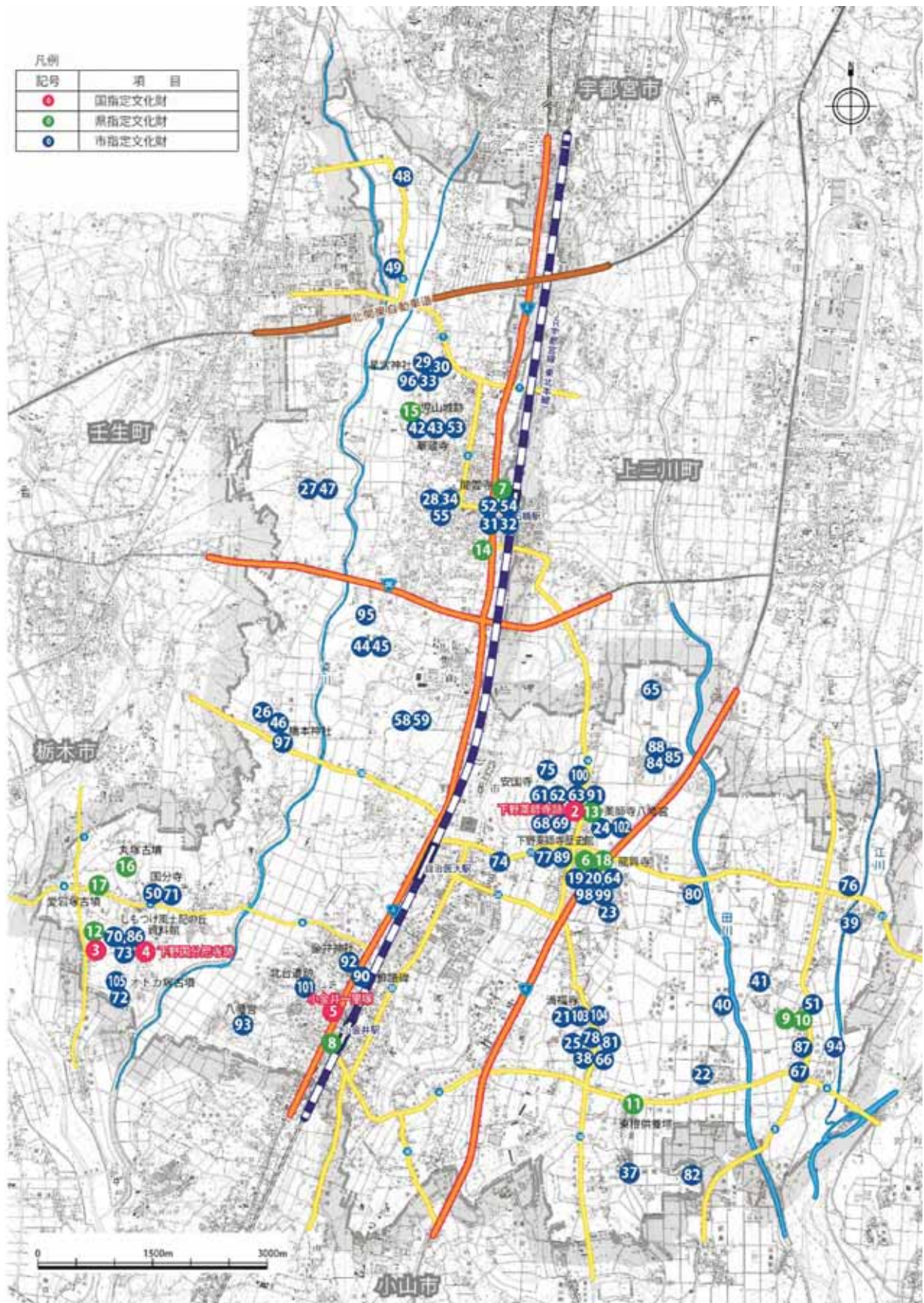


図 10 指定文化財分布図



指定文化財写真

※各番号は表 4 と図 10 対応

国指定文化財



2 下野薬師寺跡（史跡）



3 下野国分寺跡（史跡）



4 下野国分尼寺跡（史跡）



5 小金井一里塚（史跡）

県指定文化財



11 東根供養塔 (考古・歴史資料)



12 別処山古墳石室内出土遺物 (考古・歴史資料)



13 八幡宮本殿及び拝殿 (建造物)



15 兎山城跡 (史跡)



16 丸塚古墳 (史跡)



17 国分寺愛宕塚古墳 (史跡)



18 龍興寺のシラカシ (天然記念物)





24 大絵馬熊谷次郎直実と平敦盛の図（絵画）



40 石造如意輪観音坐像（彫刻）



51 石造手洗鉢（工芸品）



66 石造宝篋印塔（仁良川）（考古・歴史資料）



41 石造阿弥陀如来立像（彫刻）



52 梵鐘（工芸品）



67 石造宝篋印塔（黄梅寺）（考古・歴史資料）





68 谷地賀上野原古墳出土遺物  
(上野原古墳群 13 号墳)  
(考古・歴史資料)



69 向山遺跡出土遺物 (青銅製和鏡)  
(考古・歴史資料)



72 紫の五輪塔 (考古・歴史資料)



71 国分寺の五輪塔 (考古・歴史資料)



73 渡来銭及び常滑壺 (考古・歴史資料)



74 石造二十三夜供養塔 (考古・歴史資料)



76 石造二十三夜・二十六夜供養塔  
(考古・歴史資料)



84 鉄砲打通報の高札 (考古・歴史資料)



90 俳諧碑 (考古・歴史資料)



91 六角堂 (建造物)



92 金井神社本殿 (建造物)



93 八幡宮本殿 (建造物)



94 石造阿弥陀庚申塔 (有形民俗文化財)





98 道鏡塚 (史跡)



99 鑑真和尚之碑 (史跡)



100 藤磨墳 (史跡)



101 北台遺跡 (推定東山道跡) (史跡)



102 薬師寺八幡宮のケヤキ (天然記念物)



103 満福寺のツバキ (天然記念物)



104 満福寺のムクロジ (天然記念物)



105 オトカ塚古墳 (史跡)



## 4. 歴史文化遺産総合把握調査

歴史文化基本構想の策定を視野に、歴史文化遺産総合把握調査として、以下の調査を実施した。

- 文化財悉皆調査
- 民俗文化財調査
- 文化財に対する市民アンケート（資料編）

### （1）文化財悉皆調査

未指定の文化財の保存と活用のため、平成 21～23 年度の 3 か年で文化財悉皆調査を実施した。調査対象は、主に神社仏閣等に所在する文化財や学校保管の文化財で、市内の神社仏閣等が約 120 か所、学校が中学校 4 校、小学校 12 校の合計 16 校である。調査の結果、指定・未指定合わせて確認できた文化財は約 400 点となった。再調査が必要な箇所もあるため、総点数はさらに増加することが見込まれる。調査にあたっては、下野薬師寺ボランティアの会のご協力をいただいた。以下には主な文化財を抜粋し、調査結果の一覧は資料編に掲載する。

表 6 悉皆調査結果による主な文化財

NO	種別	名称	所在	時代
1	史跡	三王山南塚1号墳・2号墳	三王山	古墳時代
2	史跡	三王山古墳群	三王山	古墳時代
3	史跡	御鷲山古墳	薬師寺	古墳時代
4	史跡	甲塚古墳	国分寺	古墳時代
5	史跡	山王塚古墳	国分寺	古墳時代
6	史跡	横塚古墳	石橋	古墳時代
7	史跡	下石橋愛宕塚古墳	下石橋	古墳時代
8	史跡	星宮神社古墳	細谷	古墳時代
9	史跡	薬師寺城跡	薬師寺	鎌倉・室町・安土桃山時代
10	史跡	箕輪城跡	箕輪	鎌倉・室町・安土桃山時代
11	史跡	下石橋一里塚	下石橋	江戸時代
12	建造物	児山城隣接古民家	下古山	明治・大正・昭和
13	建造物	旧吉田農協倉庫	本吉田	明治・大正・昭和
14	工芸品	鱧口	上台釈迦堂	不明
15	工芸品	鱧口	東前原観音堂	江戸時代
16	彫刻	下石橋の野仏群	下石橋	江戸時代
17	彫刻	釈迦如来坐像	橋本薬師堂	江戸時代
18	歴史資料	燈籠	愛宕神社	江戸時代
19	歴史資料	子来学舎印	吉田西小	明治・大正・昭和
20	歴史資料	尋常小学校教科書	薬師寺小	明治・大正・昭和
21	歴史資料	明治天皇代拝碑	孝謙天皇神社	明治・大正・昭和
22	考古資料	甲塚古墳出土土器	市所蔵	古墳時代
23	考古資料	甲塚古墳出土埴輪	市所蔵	古墳時代
24	考古資料	横塚古墳出土遺物	下古山星宮神社	古墳時代
25	天然記念物	ヒマラヤスギ	国分寺小	
26	天然記念物	シイ	国分寺小	
27	民俗文化財	輪切り包丁	個人蔵	明治・大正・昭和
28	民俗文化財	手かんな	個人蔵	明治・大正・昭和
29	民俗文化財	輪切り用手回し機	個人蔵	明治・大正・昭和
30	民俗文化財	丸むき用手回し機	個人蔵	明治・大正・昭和
31	民俗文化財	足踏み式丸むき機	個人蔵	明治・大正・昭和

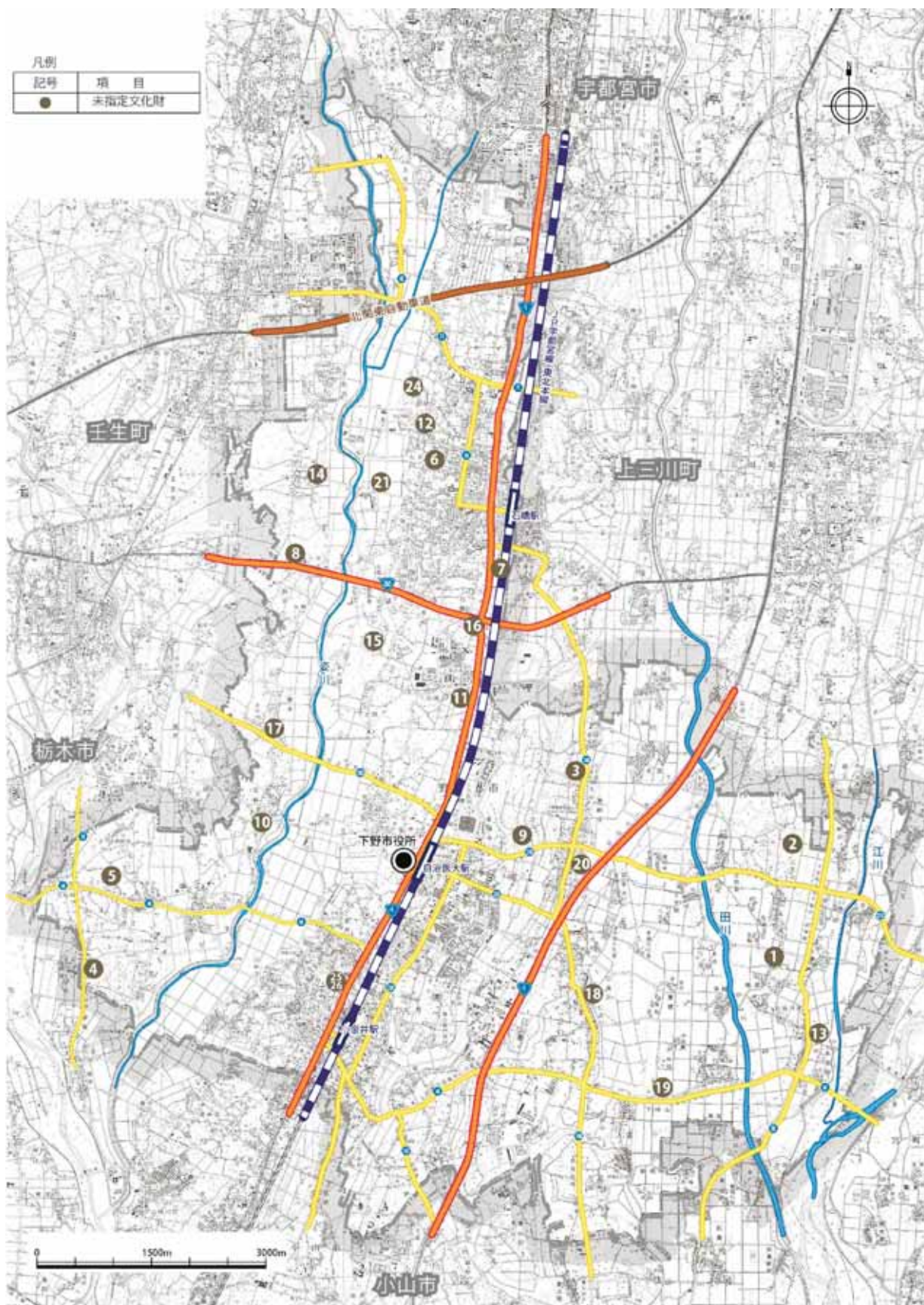


图 11 主な未指定文化財分布图



未指定文化財 現況写真

※各番号は表6と図11対応



1 三王山南塚1号墳・2号墳（史跡）



3 御鷲山古墳（史跡）



4 甲塚古墳（史跡）



5 山王塚古墳（史跡）



6 横塚古墳（史跡）



7 下石橋愛宕塚古墳（史跡）



9 薬師寺城跡（史跡）



10 箕輪城跡（史跡）



22 甲塚古墳出土土器（考古資料）



23 甲塚古墳出土埴輪（考古資料）

## (2) 民俗文化財調査

本市において指定件数が少なく、町史編さん事業として過去に調査が行われたままであった民俗文化財と建造物に関する調査を改めて行った。

民俗文化財については、南河内町史民俗部会により、克明な調査が行われ、その成果が民俗編としてまとめられている。しかし、限られた紙幅の中に収録された成果は一部のみの掲載となっており、調査記録として膨大なデータが残されている。また、聞き取りに関連するものや生産に関するものは既に関係者や伝承者がいなくなっており、今では再調査が不可能な記録も残されている。他の石橋・国分寺地区についても町史編さん事業で残された資料を元に再調査を進めたが、ここでも同様に追認が不可能となった部分もあった。民俗調査については、現在残されている記録を有効活用できるように一部データ化を進めている。調査者が記録したカード型のデータを元に分類を行い、データの滅失等が今後起きないように、また、公開できるような方法を検討している。

これらの民俗資料の中で、旧3町時代から農業生産に関する道具が収集・保管されている。旧石橋町のテーマ館には、町の特産品である「干瓢」に関する生産道具と、江戸期以降の鉄道網と道路が発達する明治期まで主な交通手段であった「馬」に関する資料、特に馬市に関する資料などを展示していた。旧南河内町では、移築した豪農の家屋（別処山民俗資料館）に当時の生活道具や稲作・畑作、養蚕・機織などに関する道具を展示していたが、東日本大震災の被害を受け家屋が半壊したため取り壊しとなった。その結果、ここに展示・収納されていた資料は公開する場所がなくなり、現在分散した状態で収納されている。旧国分寺町では現在まで、天平の丘公園内に移築した江戸期の豪農の家屋で当時の生活の様子や農具に関する展示が行われている。当建物の管理は商工観光関連の部署で行われており、学術的な展示手法はとられていない。

先に述べたとおり、東日本大震災で本市も一部の家屋に被害が及んだ。特に農業従事者の農機具を収納する倉庫・付属棟・納屋（当地域ではアマヤと呼称）の損壊が目立った。その修理の際に、古い農具等が必要ならば市に寄贈したいとの問い合わせが複数件あった。そこで、それ以前から干瓢の生産道具と生産技術について、壬生町との共同事業として栃木県による「わがまち協働事業」の補助を受けて、資料の収集や保管、生産技術の聞き取り調査等を進めていたことから、資料の再収集に向けた調査を行った。この一連の作業により新たに資料が収集され、現在、壬生町・上三川町と連携し、資料の整理を進め、今後の登録有形文化財指定に向けた作業を行っている。



手かんな



輪切り用手回し機



丸むき用手回し機